



学校だより

令和6年9月号
令和6年8月30日
校長 小澤 秋仁

<http://www.kiyose.ed.jp/kiyosetyuugakkou/index.html>

メダル

校長 小澤 秋仁

この夏といえば、「パリオリンピック」です。コロナ禍の東京オリンピックが3年前ということになります。早いものです。オリンピックもさることながら、令和6年度の中学生の全国大会も盛り上がりました。なんと、本校生徒が第51回全国中学校陸上競技選手権大会の男子3000mに出場したのです。全国大会に出場するには、都大会において標準記録を突破せねばなりません。3000mの標準記録は8分57秒00。昨日、4kmほどランニングをして、記録アプリを確認すると1kmあたり、8分40秒。私の3倍のペースでトラックを駆けているわけですから、驚愕です。福井県営陸上競技場9.98スタジアムにて、予選の5組にて出場。懸命な走りをみせてくれました。



私は、バレーボールの役員としても、福井県を訪れました。女子は、バレーボールを強化指定する大阪の私立中学校の5連覇で幕を閉じました。5連覇という偉業に大きな拍手を贈りました。我々には想像できない苦労や努力があったことでしょう。その時、不意にパリオリンピックの女子レスリングのことが頭によぎりました。

女子レスリングは全ての階級でメダルを獲得するというこれまた偉業を成し遂げました。そこで気になったのが、各選手の出身チームのことです。女子レスリングというと「至学館大学」というイメージです。調べてみると、2020東京オリンピックまでにとったメダル20個のうち17個が至学館大学の道場で育った選手たちです。ところが、今夏のパリオリンピックでは、至学館の学生・OGは一人も代表に選ばれていません。至学館レスリング部は衰退していったのでしょうか。

私が部活動の指導力を高めるために通い詰めた師と仰ぐ先生のもとには、指導法を学ぶために、いつも複数チームが集まっていました。師曰く「独占企業はやがて衰退するんだよ」自チームを強くするだけではなく、自分の周りや後輩を育てないと競い合う相手がなくなるといいます。私もそうやって育てられた一人です。やはり一人勝ちは・・・と思いつつ、現在の至学館大学レスリング部についてさらに調べてみました。すると、衰退どころか、現在、至学館の道場は世界各国のナショナル・チームの合宿の場になっているのです。この1年で10カ国以上のナショナル・チームが訪れているといえますから驚きです。「世界的な普及が十分でない」という理由で一時はオリンピック種目から除外されそうになった時もありました。多くのメダリストを輩出した至学館は、この問題に向き合い、自チームの強化もさることながら、世界各国の普及・強化に取り組んでいるのです。もちろんパリオリンピックでメダルを獲得した日本代表選手も、8人もの金メダリストを育てた至学館の道場の門を叩いているといえます。もはや、至学館の道場は、世界を強くするという立ち位置なのです。

前出の5連覇を成し遂げたチームの監督は、何年も続けて近畿ブロックの指導者講習会の講師を務めるなど、後進の指導に積極的に取り組んでいるそうです。また、選手たちは、地域清掃やボランティア活動に力を入れ人間力を磨いています。自分の周りのチームだけではなく、地域を盛り上げようとする姿勢から、5連覇に納得がいきました。周りのチームは勝つことで恩返しです。

かつて、私のチームが地区大会の準決勝で敗れ、3位決定戦で何とか銅メダルをつかんだものの、優勝を逃したことから、選手と共に落ち込んでいると、我が師はそっと私に声をかけました。「銀は決勝戦に負けて獲得するけれど、銅は3位決定戦に勝って獲得する。それに銅は金と同じって書くんだよ。金と同じくらいの価値がある。だって、選手たちは金のチームと同じくらいの努力してきたんだ」この声によって、勝って3位の銅メダルを素直に喜ぶことができるようになりました。言葉は続きます。「選手は頑張っている。金のチームと同じ時間しかないのだから、あなたがもっと指導の工夫をしないと」実は慰めどころか、後進に対する厳しい指導であったのです。

師のチームに勝利するまでに6年の月日を費やしました。

箏曲部サマーコンサート

7月20日(土)清瀬中体育館で箏曲部によるサマーコンサートが開かれました。箏曲部の面々は浴衣に身を包み、箏の演奏に花を添えました。和の魅力が伝わってきます。

演奏曲

- 1) 花筏
- 2) あこがれ
- 3) 天泣
- 4) 千本桜

音響の関係で、箏の並びに工夫をしました。難

しいテクニックを駆使しながら見事な演奏の披露に会場からたくさんの拍手をいただきました。



吹奏楽部 サマーコンサート

7月27日(土)清瀬中音楽室にて吹奏楽部によるサマーコンサートが開かれました。

演奏曲

- 1) 合奏の種より
「カエルの合唱」「よろこびの歌」「ふるさと」
- 2) Mela!
- 3) Legacy ～受け継がれゆくもの～
- 4) ケセラセラ

夏休み中にも関わらず、保護者の方々はじめ多くの方々に参観いただきました。奏者に、二人の教員が

参加し、みんなで創り上げました。



小中連携 学習サポートボランティア

7月22日(月)～26日(金)まで、小中連携の一環として、清瀬小学校の夏期学習教室のサポートを清中生が行うボランティアを募りました。

5日間でのべ51名が参加しました。清瀬小の児童の皆さんは、「東京ベシクドリル」で学習し、清瀬中の生



徒たちは、マル付けや質問について解説をしていました。小学生は100名以上の参加で4教室に分かれて取り組みました。

オープン自習・学習室

7月29日・30日、8月26日・27日に、NPO法人きよせラボによる「オープン自習・学習室」を開設しました。清瀬中の図書室を自習室として開放しました。

「大学生や地域の方々と一緒に」がコンセプトで、地域の方々や大学生が清中生と共に自習室を活用します。そこで、質問や相談があれば気軽に話をできる企画です。

「井戸端会議で語った、学んだ。」あの頃の光景を目指します。



令和6年度 道徳授業地区公開講座のお知らせ

来る9月10日(火)の5校時に「いじめの3つの立場(被害者・加害者・傍観者)」に関連する道徳の授業を各クラスで行い、6校時に弁護士の山下敏雅 様と、保護司の菊間英子 様を講師にお迎えして、講義をしていただきディスカッションをしていきます。保護者や地域の方々の多数の参加をお待ち申し上げます。

5校時 13:35～14:25 各教室にて道徳授業の公開

6校時 14:35～15:25 体育館にて講義とディスカッション